

1 はじめに

2008年4月5日、フィリピンのニノイアキノ国際空港に到着し、身を焦がすような強い日差しを感じ、すぐにバスに乗り込んだ。それから3年、マニラの地で、全国から集まった同士とともに力を合わせ、日々研鑽に励んだことは、私にとってかけがえのない大きな財産となった。この場を借りて、一部ではありますが、現地での体験や取り組みを報告させていただきます。

2 フィリピン・マニラの概要

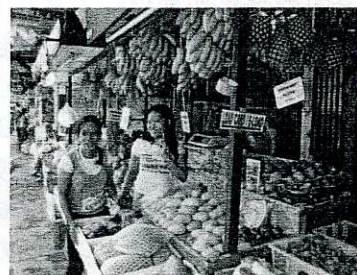
(地理)

フィリピンは、7107の島々からなる群島国家で、主にルソン（北部）ビサヤ（中部）ミンダナオ（南部）の3地域に大別される。総面積は、約30万平方キロメートルで日本の面積の約81%である。首都はメトロ・マニラ。



(気候)

首都マニラのあるルソン島南西部は季節風の影響を受け、通常、雨期（6～10月）と乾期（11月から5月）に分かれる。雨期は、午後スコールが来ることが多く、一日中雨が降ることはほとんどない。また、フィリピン東方沖で台風が発生することが多く、季節風の影響で甚大な豪雨をもたらすこともある。乾期は天気が安定し雨が少ない。3月から5月が最も暑い。



マーケットに並ぶ南国フルーツ

(人口、民族)

2009年の総人口推計は9223万人であり、年率2%強の勢いで増え続けており、2015年には1億296万人、2040年には1億4167万人になると推定されている。平均寿命は男性67才、女性73才。メトロマニラの人口は1155万人で、全人口の約13%が首都に集中している。



庶民の足、ジブニー

民族構成は、大別すると、マレー系、中国系、その他少数民族となるが、スペイン、アメリカの統治、中国との交易などを経て、混血が進んでいる。言語は100以上あると言われているが、タガログ語を母体としたフィリピン語と英語を公用語としている。

(生活)

貧富の差が激しく、国民の約7割が貧困層であると言われている。主要産業に乏しく、少数の企業や財閥に富が集中しているため、国民の8人に1人が海外へ出稼ぎに行き、海外からの送金がGDPの10%にもなっている。また、地方では、仕事が少なく、収入が少ないため、大都市に出てきて働き、家族に送金しているという人も多い。



新しい鉄道 (LRT 2)

国民の93%以上がキリスト教徒であり、アジアで最もキリスト教の影響を受けている。そのため街の至る所に教会があり、日曜日は、家族でミサに行く。4月上旬のホーリーウィーク、10月ハロウィン、12月クリスマス、1月ニューイヤーが、1年の大きな行事である。



ゴミ山周辺に住む子どもたち

食事では、ミリエンダ（おやつ）の時間が午前10時と午後3時にある。（学校でもスナックを食べる）フィリピン人は、甘い物がとても好きである。食事の時は、右手にスプーン、左手にフォークが基本である。

ボホール島

マニラの人口

人口抑制法

NGOのスタイク

生活の向上 ゴミ山の生活から 1. 新たな会社を作る
10ヶ月 支援を待つ 放課後学習

